

デイリー・ジーザス・ニュース #234

イエスのエルサレムへの最後の旅 ぶどう園の労働者に関するイエスのたとえ話 マタイ 20.1-16

1 「天の御国は、自分のぶどう園で働く労働者を雇うために、朝一番に出かけた人のようなものです。2 彼は彼らに一日につきデナリオン^Lドル支払うことに同意し、彼らを自分のぶどう園へ送りました。

3 「朝の9時にイエスは外に出て、市場に人々が立っているのを見ました。4 イエスは彼らに言われた。
「あなたたちも私のぶどう園に行つて働きなさい。それに応じた報酬を支払います。」5 それで彼らは出発した。

」彼は正午と午後3時に再び外出し、同じことをしました。6 午後5時、イエスは外に出て、まだ他の人々が立っているのを見つけました。イエスは彼らに尋ねました。「なぜ一日中何もせずにここに立っていたのですか？」

7 「『だれも雇ってくれないからです』と彼らは答えました。するとイエスは、『あなたたちも私のぶどう園に行つて働きなさい』と言われました。

8 「夕方になると、ぶどう園の主人は管理人に言いました。『労働者たちを呼びなさい。最後に雇った者から始めて、最初に雇った者へと順次賃金を支払いなさい。』

9 「午後5時に雇われた労働者たちは来て、それぞれ1デナリオンを受け取りました。10 そこで、最初に雇われた人たちは、もっと多くもらえると期待していました。ところが、彼らも一人一人デナリオンずつ受け取りました。11 彼らはそれを受け取ると、地主に対して苦情を言い始めた。

12 彼らは言いました。『最後に雇われた者たちは、たった一時間しか働いていないのに、あなたは彼らを、一日中重労働と暑さに耐えてきた私たちと同じ扱いにされたのです。』

13 しかし、イエスは彼らのうちのひとりに答えて言われた。「友よ、私はあなたに対して不正を働いてるのではない。あなたは一デナリオンで働くことに同意したではないか。14 給料を受け取って行きなさい。最後に雇われた者にも、あなたと同じ給料を払いたいのです。15 わたしには自分のお金で好きなことをする権利がないのですか？それとも、わたしが気前がいいから妬んでいるのですか？」

16 「だから、最後の者は最初となり、最初の者は最後となるのです。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

デイリー・ジーザス・ニュース #234

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムへの道のどこか
タイムライン	3月（38月）
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教
	C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	ぶどう園の労働者についてのイエスのたとえ話

コメント：

イエスは前の段落で、富の危険性と忠実さの報いについての説明を、「**多くの最初の者は最後になり、最後の者は最初になる**」という言葉で締めくくられました。今日の朗読では、この真理をさらに詳しく説明するために、イエスはたとえ話を語られました。たとえ話は同じ言葉で終わりますが、順序が逆になっていることに注目してください。このたとえ話の教えは、前の教訓と同義です。

このたとえ話は、地主の主権に基づいています。土地の所有者として、彼は土地を好きなように使う権利を持っていました。労働者を雇うだけの資金があり、彼らの労働を期待する権利もありました。そして、管理人が忠実に仕えることを期待していました。神は宇宙の唯一の主権者であり創造主であり支配者であるため、すべての人々は神に責任を負い、神の前で責任を負います。これが私たち皆が生きている現実です。

イエスはこの物語の中で、神の主権について二つの点を強調しました。第一に、神は善であり、それゆえに公正で義なる方です。イエスは事前に労働者と賃金について話し合い、合意しました。その日のうちに労働者を雇う際、イエスは「正当な賃金」を支払うと約束しました。そして、その約束を守りました。労働者の何人かが賃金に不満を漏らしたとき、イエスは優しく彼らを「友」と呼びました。地主の道徳的な善良さは、彼が労働者とのあらゆるやり取りにおいて、公正で、義にかなっており、約束を忠実に守る原動力となりました。神はそのような方です。

第二に、地主は途方もなく寛大でした。たった1時間しか働かなかった人々にはデナリオンの借金はなかったものの、一日中働いた人々と同じ賃金を支払ったのです。一日の初めに雇われた労働者に不公平な扱いをするどころか、最後に残った人々に惜しみなく分け与えたのです。主権者である地主は、望むだけ惜しみなく、慈悲深く振る舞う権利を持っていました。神の義は、その寛大さを何ら制限するものではありません。

神は義であり、慈悲深いので、この世で「第一」の者、つまり自分自身で十分な者、つまり「富める者」の多くは、最後の審判と来世において最後になることを知るでしょう。逆に、この世で「貧しい者」の多くは、この世で「最後」になることを知るでしょう。しかし、最後の審判と来世においては、自分たちが「第一」になることを知るでしょう。

デイリー・ジーザス・ニュース #234

王イエスが御国を統治するために最終的に来臨される時、この世の価値観と優先順位は、永遠の、そして一瞬の調整によって正されます。その日、すべての人は裁きにおいて神の義と正義を経験するでしょう。この世の「心の貧しい人々」もまた、神の永遠の寛大さ、すなわち御子の恵みと憐れみを受けるでしょう。「大転換」は、その日の終わりに必ず起こります。

応用：

マタイは、このたとえ話を福音書に含めた唯一の著者です。徴税人、つまり現代で言えば会計士が、労働者の賃金を「公正に」会計するこの話を取り上げたのは興味深いことです。会計を担当していた人の個性と視点がここに表れています。これは、神が私たちの個性、人生経験、そして専門知識を神の王国において用いてくださることを思い起こさせる、心強い教えです。神は何も無駄にせず、すべてを活用し、すべてを善のために働かせてくださいます。これは、「心の貧しい人」に対する神の寛大さの一部です。

最後の審判において、不平は一切ありません。すべての人が、神の栄光のために、神の裁きは完全に義であり、公正であることを宣言するでしょう。同時に、「心の貧しい者」は神の寛大さを経験し、この世のあらゆる痛み、心痛、苦しみ、病から解放され、イエスの完全な道徳的似姿へと変えられ、三位一体の神との完全な親密な交わりにふさわしい者へと変えられるという輝かしい栄光へと引き上げられるでしょう。私たちはイエスの共同相続人となるのです。

あなたは神との関係において「何もせずにただ立っている」のでしょうか？

あなたに対する神の寛大さの確信は、今日、神にもっと忠実に仕える動機をどのように生み出すのでしょうか。